

EPSON
EXCEED YOUR VISION

70th
ANNIVERSARY

2012年度(2013年3月期) 第2四半期 決算説明会

2012年10月31日

セイコーエプソン株式会社

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。

そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新商品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

■ 本説明資料における表示方法

数値： 表示単位未満を切り捨て

比率： 千円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

1. 概要

2. 詳細

決算ハイライト（中間決算）



(億円)	2011年度		2012年度				増減額 / 増減率	
	実績	%	7/31予想	%	実績	%	前期実績比	前回予想比
売上高	4,255	-	4,000	-	3,882	-	-372 -8.8%	-117 -2.9%
営業利益	67	1.6%	△140	-3.5%	△141	-3.6%	-209 -	-1 -
経常利益	61	1.4%	△140	-3.5%	△141	-3.7%	-203 -	-1 -
税引前利益	0	0.0%	△300	-7.5%	△296	-7.6%	-297 -	+3 -
純利益	△43	-1.0%	△340	-8.5%	△354	-9.1%	-310 -	-14 -
EPS	△21.89 円		△190.06 円		△198.15 円			
換 算 レ ー ト	USD	79.82 円	77.00 円		79.41 円			
	EUR	113.80 円	102.00 円		100.64 円			

前回予想 第2四半期以降の予想前提レート
USD: 75.00円、EUR: 100.00円

3

■ 2012年度 中間決算の実績

- 売上高が前年同期比 372億円減収の 3,882億円、営業利益は 209億円減益の 141億円の損失、純損失は 354億円。
- また、7月31日に発表した前回予想に対しては、営業利益は、ほぼ予想どおりとなったものの、支柱事業である情報関連機器事業は、売上高、営業利益ともに前回予想を下回った。

インクジェットプリンター事業

- 市場低迷、一部地域での競争激化により、本体・消耗品とも売上高未達
 - ✓ 本体販売数量は前年同期比プラス成長だったものの未達
- 本体コストダウン計画の未達で営業利益未達

ビジネスシステム事業

- 中国のSIDM徴税需要(新規導入分)の来期へのずれ込みと、先進国景気回復遅れの影響によるPOS関連製品の販売計画未達により、売上高・営業利益ともに未達

ビジュアルプロダクツ事業

- プロジェクター販売数量は前年同期比プラス成長だったものの、中国市場の成長鈍化影響や入札案件の先送り影響などを受け、売上高は未達
- 高付加価値製品の伸びによるミックス改善で、営業利益はほぼ前回予想並み

4

■ 第2四半期における情報関連機器事業の業績のポイント

- IJP事業では、欧米市場が引き続きマイナス成長だったことに加え、販売単価の高い日本市場での競争激化の影響を受け、エプソン全体の販売数量は前年同期比21%のプラス成長を確保したものの、売上高は前回予想比で未達。また、利益面では、新製品の生産立ち上げにおいてコストダウンが計画通りに進捗しなかったことなどにより、未達。
- ビジネスシステム事業では、SIDMが、中国の徴税需要の新規導入分が来期へずれ込んだこと、ならびに、POS関連製品の欧米市場における景気回復の遅れや案件の時期ずれなどの影響により、売上高・営業利益ともに未達。
- ビジュアルプロダクツ事業では、プロジェクターが、日本や北米、欧州新興国などの堅調な教育需要により、販売数量は前年同期比20%のプラス成長を確保したものの、中国市場の成長鈍化や、一部入札案件の先送りの影響などから、売上高は未達。
利益面では、高輝度や短焦点などの高付加価値製品が堅調だったことから、ほぼ予想並み。

2012年度業績予想



(億円)	2011年度		2012年度				増減額 / 増減率	
	実績	%	7/31予想	%	今回予想	%	前期実績比	前回予想比
売上高	8,779	-	8,700	-	8,500	-	-279 -3.2%	-200 -2.3%
営業利益	246	2.8%	280	3.2%	180	2.1%	-66 -26.9%	-100 -35.7%
経常利益	270	3.1%	280	3.2%	160	1.9%	-110 -40.8%	-120 -42.9%
税引前利益	156	1.8%	130	1.5%	△40	-0.5%	-196 -	-170 -
当期純利益	50	0.6%	50	0.6%	△150	-1.8%	-200 -	-200 -
EPS	26.22 円		27.95 円		△83.85 円			
換算 レート	USD	79.08 円	76.00 円		77.00 円		今回予想 2012年度下期の予想前提レート USD: 75.00円 EUR: 100.00円	
	EUR	108.98 円	101.00 円		100.00 円			

前回予想 第2四半期以降の予想前提レート
USD: 75.00円、EUR: 100.00円

5

■ 2012年度の通期業績予想

- 売上高は、前回予想を 200億円下回る 8,500億円、
営業利益は、100億円下回る 180億円、
当期純利益は、200億円下回る 150億円の損失に修正。
- 下期は、欧米を中心とする先進国の景気回復の動きが一段と鈍化するとともに、
中国などの新興国市場においても成長に減速感がみられることから、情報関連機器
事業を中心に予想前提を見直し、これに伴い、前回予想から下方修正。
- また、当期純利益は、営業利益の下方修正に加え、訴訟関連損失や
投資有価証券評価損の発生などを見込むほか、税効果会計の影響により、
損失計上となる見通し。

2012年度通期業績予想修正のポイント



インクジェットプリンター事業

- 売上高は、先進国市場のマイナス成長、エマージング市場の成長鈍化を反映
⇒ 本体数量は追わず、モデルミックス改善、MIF構成の改善を進める
 - ✓ 低価格Home IJPの販売数量の絞り込み
 - ✓ Office IJPおよび高画質Home IJPの販売拡大
 - ✓ エマージング市場はBig Tank製品の拡充で販売拡大
- 営業利益は、本体コストダウン計画および消耗品売上高を見直し、反映

ビジネスシステム事業

- 売上高・営業利益とも、中国徴税需要動向を踏まえSIDM販売数量を修正、先進国の景気回復遅れを勘案しPOS関連製品の売上高を修正し、反映

ビジュアルプロダクツ事業

- 売上高・営業利益とも、高付加価値製品への注力によるモデルミックス改善を進めるものの、市場環境を踏まえ販売数量目標を修正し、反映

※ MIF: Machines in Fields (市場設置台数)

6

■ 2012年度の情報関連機器事業の業績予想修正のポイント

- スライドに準じ、説明。

2012年度通期業績予想修正への対応



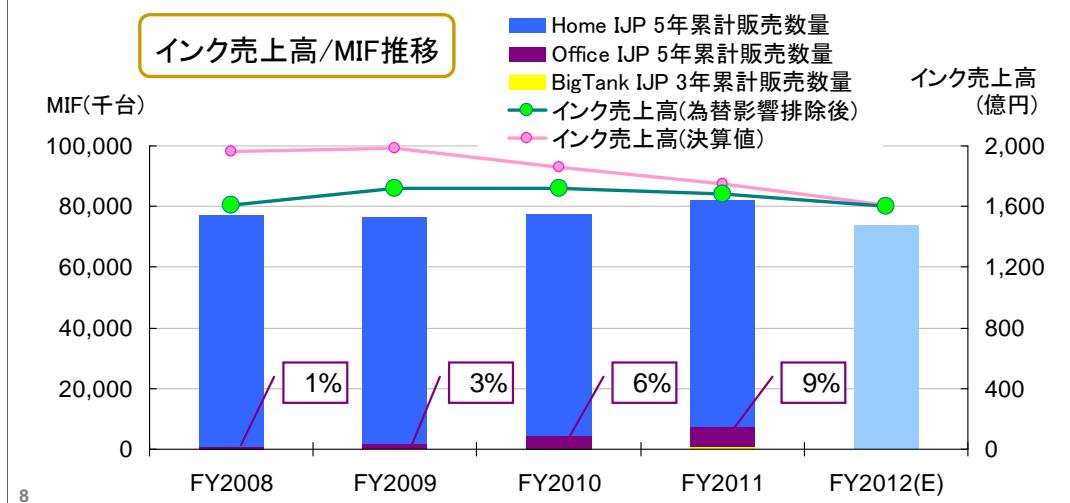
- 予想修正の背景
 - ✓ IJP事業は、2011年度上期震災影響からの回復を強く意図した販売計画により、2012年初からの市場の冷え込みに対応できなかった
 - ✓ ビジネスシステム事業は、環境の急激な変化への対応が遅れた
- 2012年度業績予想修正を踏まえ、足下の対応として以下の施策を加速する
 - ✓ 組織のフラット化・スリム化による経営スピードの向上
 - ✓ 在庫削減
- SE15後期 中期経営計画の1年次(2012年度)業績予想の見直しに伴い、中期業績目標値、およびSE15で目指す水準を、見直す
 - ✓ マクロ経済環境、市場環境、競争環境の変化を踏まえ、戦略の有効性および目標値の合理性について、検証・見直しに着手
 - ✓ 採り得る戦略の方向は変わらないものの、前提や時間軸を精査
 - ✓ 検証・見直しの結果は、第3四半期の業績を見極めた上で、できる限り早いタイミングで公表

7

■ 2012年度通期業績予想修正への対応

- スライドに準じ、説明。

- 当社のインク売上高(為替影響排除後)は横ばいから微減の傾向にあり、主にHome IJPのインク売上高は減少傾向にある一方で、Office IJPのMIFは未だ低水準でありながらも徐々に増加していることにより、これを補っている。
- インク売上高成長のために、今後もOffice IJPのMIF増加を推進する一方で、低価格Home IJPの販売数量を絞り、MIFの構成を改善する。



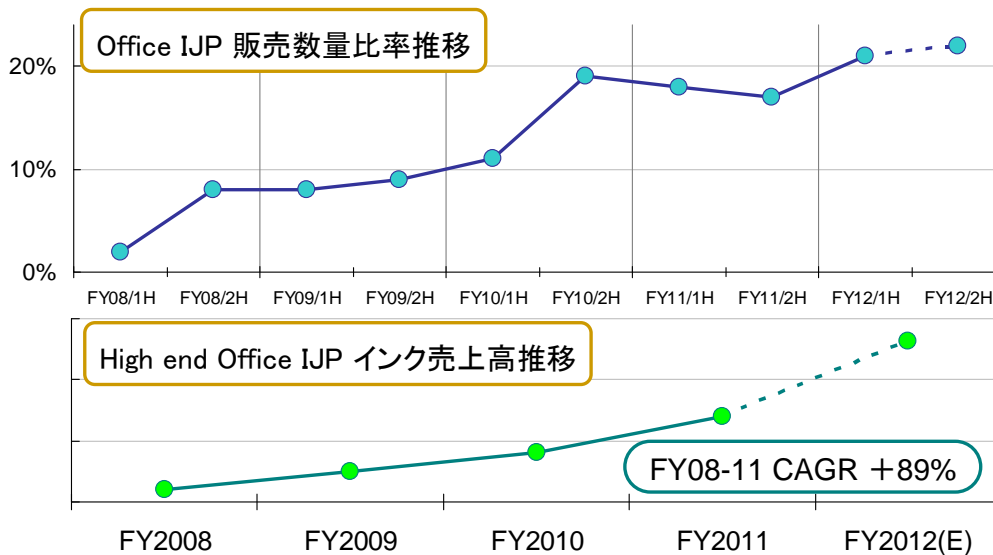
■ SE15後期 中期経営計画の戦略の進捗と成果について

- スライドに準じ、説明。

SE15後期 中期経営計画の進捗



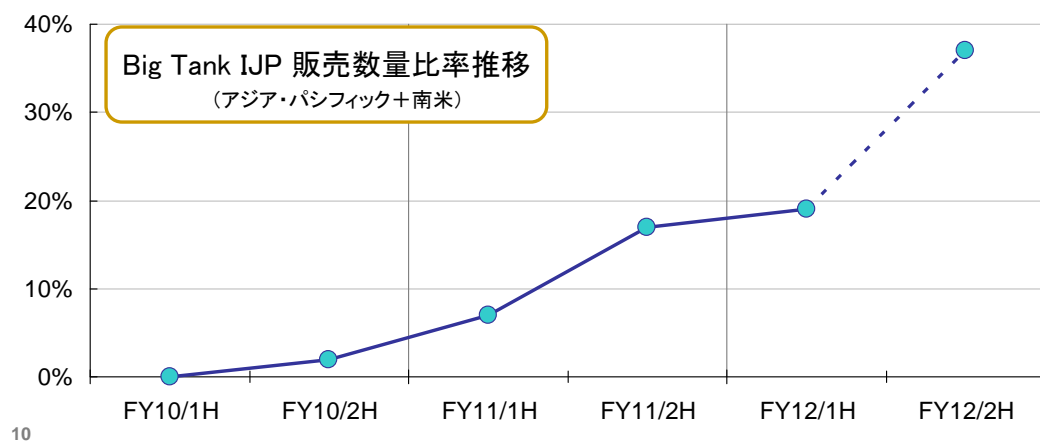
- Office IJP本体のMIF増加により中期的な収益基盤を確立する。
- High end Office IJPのインク売上高伸長率は高水準で推移している。



■ SE15後期 中期経営計画の戦略の進捗と成果について

- スライドに準じ、説明。

- Big Tank IJPは、アジアパシフィックや南米を中心に順調に販売が拡大、今下期には同地域の販売数量比率は40%近い水準へ。
- これに伴い、同地域の利益率は改善方向にあり、今後もエマージング市場でBig Tank IJPの更なる拡販をはかる。



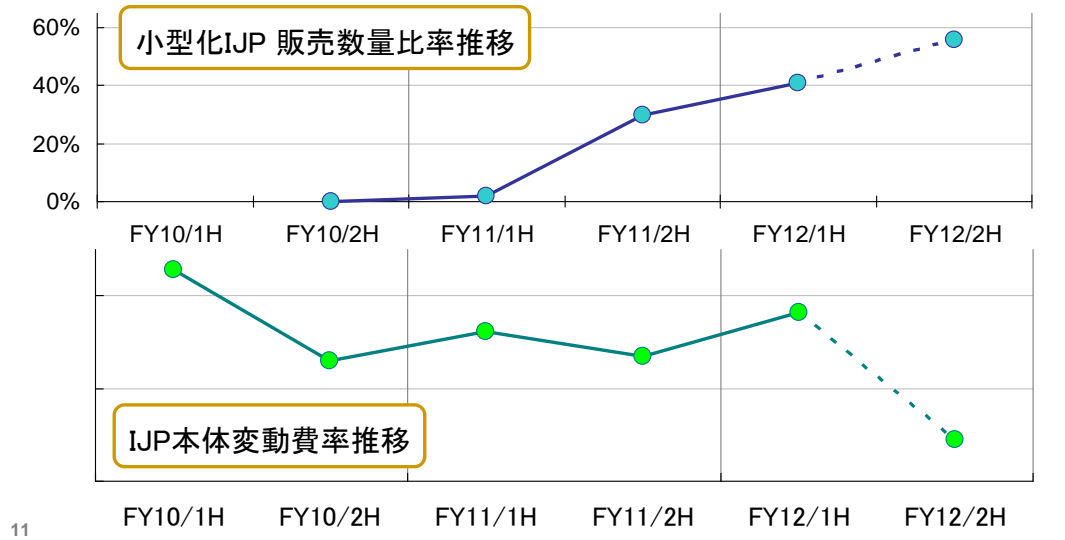
■ SE15後期 中期経営計画の戦略の進捗と成果について

- スライドに準じ、説明。

SE15後期 中期経営計画の進捗



- IJP本体小型化モデルの販売比率は着実に拡大しており、商品競争力向上の源泉となっている。
- 一方、損益面でも一定の改善効果は表れているものの、計画コストに対する進捗が遅れていることから、今後コストダウンへの取り組みを一層強化する。



■ SE15後期 中期経営計画の戦略の進捗と成果について

- スライドに準じ、説明。

1. 概要

2. 詳細

1) 2012年度 第2四半期決算

2) 2012年度 業績予想

決算ハイライト（第2四半期決算）



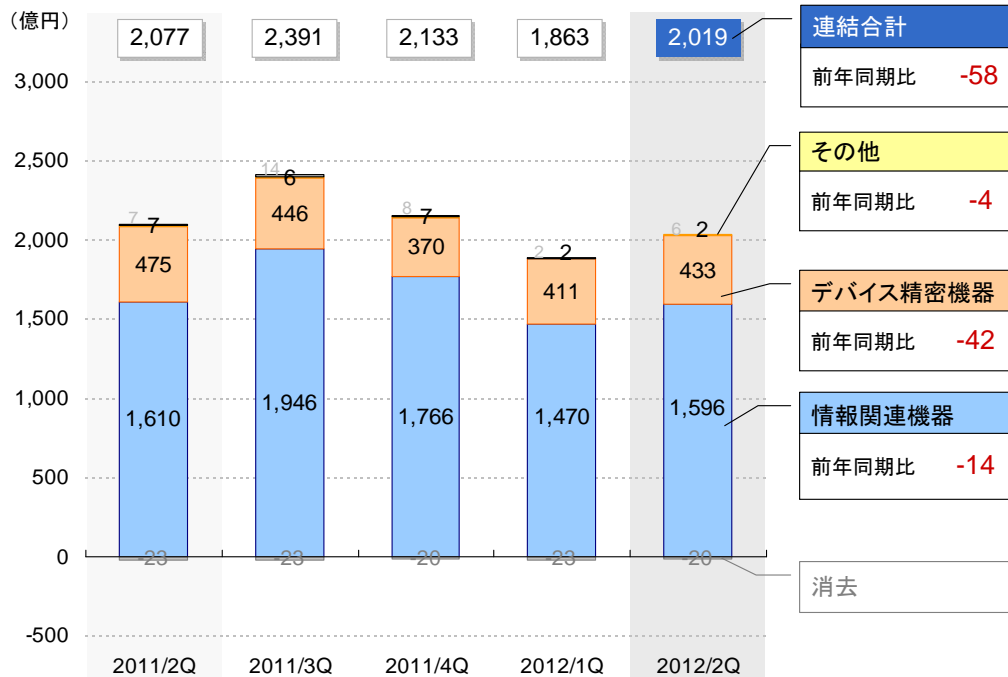
(億円)	2011年度		2012年度		増減	
	2Q実績	%	2Q実績	%	増減額	増減率
売上高	2,077	-	2,019	-	-58	-2.8%
営業利益	31	1.5%	19	1.0%	-11	-37.2%
経常利益	37	1.8%	22	1.1%	-14	-39.1%
税引前利益	△4	-0.2%	22	1.1%	+26	-
四半期純利益	△11	-0.6%	△9	-0.5%	+1	-
EPS	△5.75円		△5.48円			
換算 レート	USD	77.89円	78.63円			
	EUR	110.19円	98.36円			

14

■ 2012年度 第2四半期の決算ハイライト

- 売上高は、前年同期比 58億円減収の 2,019億円、
営業利益は、19億円、
四半期純損失が 9億円。

四半期売上高推移 ▶ 事業セグメント別

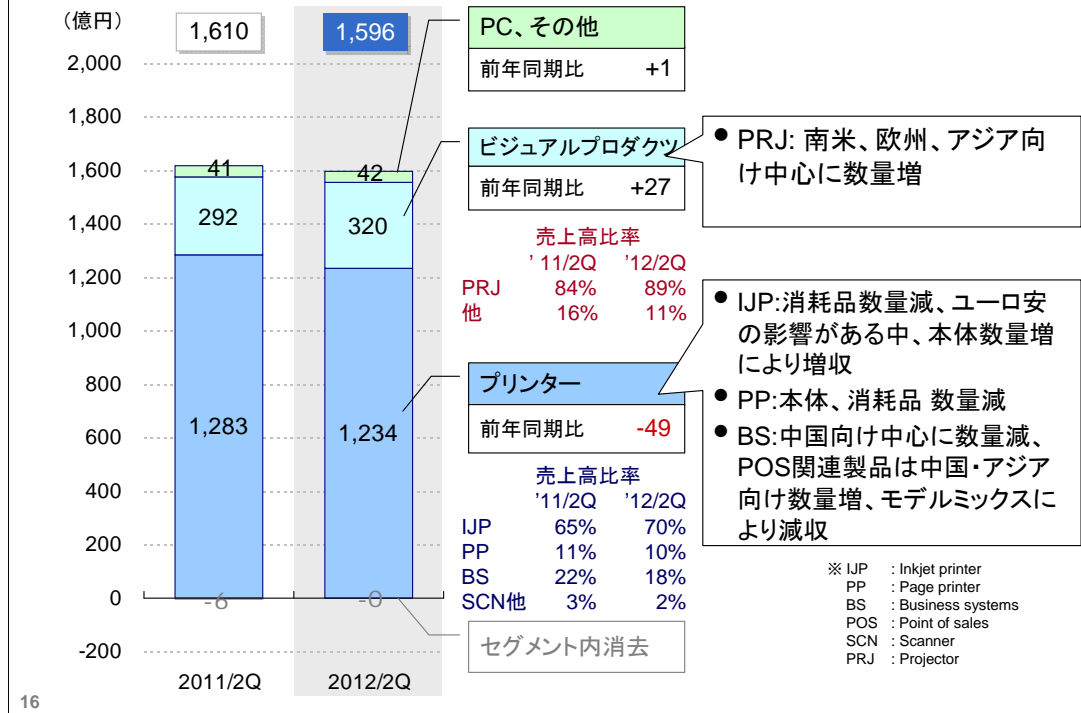


15

■ 事業セグメント別の 四半期 売上高推移

- 情報関連機器セグメントは、前年同期比 14億円の減収、デバイス精密機器セグメントは、前年同期比 42億円の減収。
- なお、当四半期の売上高の為替影響は、情報関連機器セグメントを中心に、約39億円のマイナス影響。

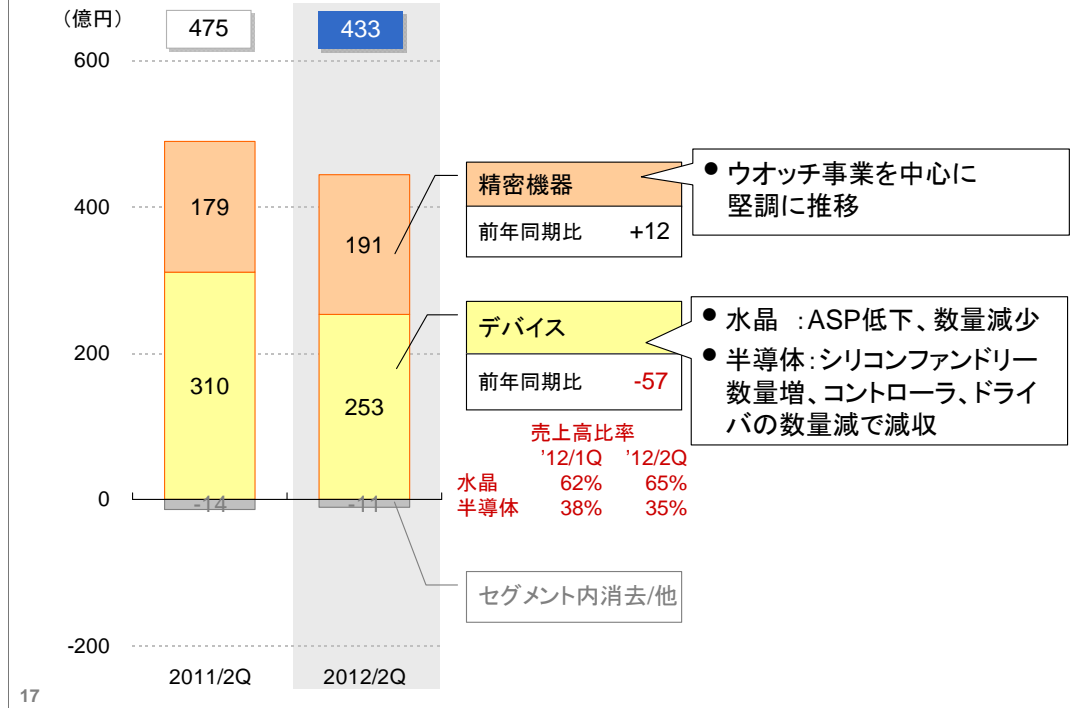
四半期売上高比較 ▶ 情報関連機器セグメント



■ 情報関連機器セグメントの 第2四半期 売上高

- プリンター事業は、49億円の減収。
- インクジェットプリンターは、消耗品の数量減、ならびにユーロ安の為替影響を受けたものの、本体の数量増により増収。
- 本体の地域別状況については、欧米市場が前年割れとなる中、当社は米州、欧州、日本市場において数量増。
- ページプリンターは、案件の時期ずれや減少などにより本体と消耗品数量が減少し、減収。
- ビジネスシステムは、SIDMが 中国向け徴税需要が好調だった前年に比べ数量減となったことに加え、POS関連製品が中国・アジア向けに数量増となったものの、普及価格帯製品の販売が中心となったことにより、減収。
- ビジュアルプロダクツは、南米や欧州、アジア市場を中心に全地域において、ビジネス・教育市場向けに数量増となったことに加え、日本市場を中心に超短焦点製品の販売拡大によるモデルミックスの改善などもあり、前年同期比 27億円の増収。
- 社内計画との比較は冒頭のとおり。

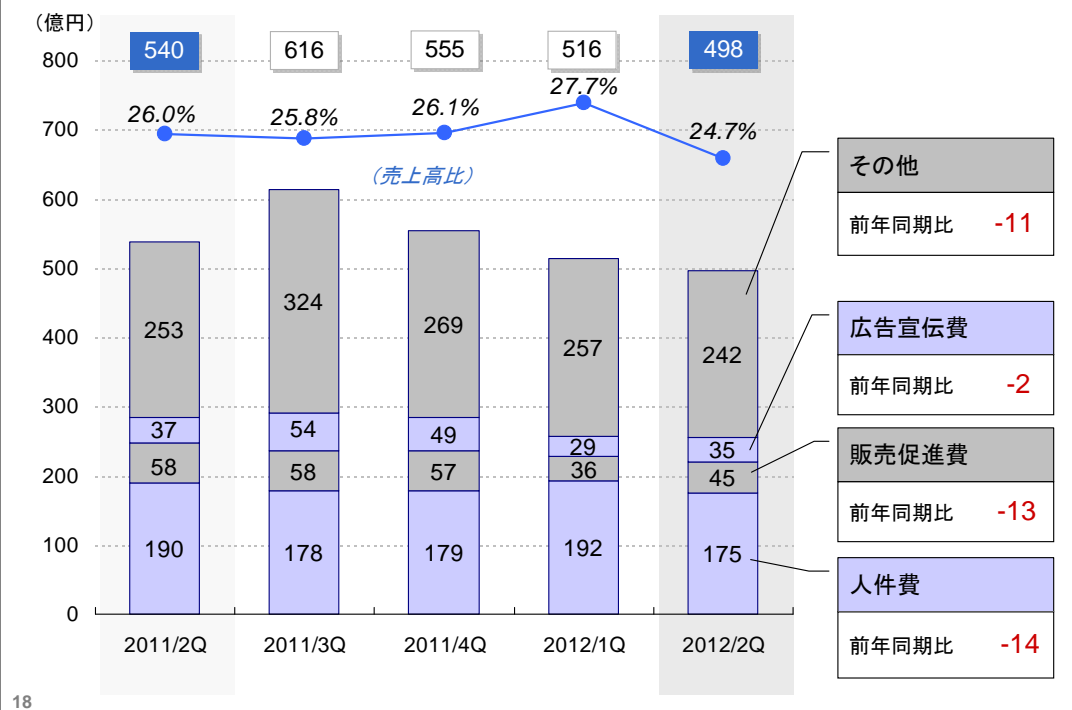
四半期売上高比較 ▶ デバイス精密機器セグメント



■ デバイス精密機器セグメントの前年同期比較

- デバイスは、水晶が、ASPの低下 ならびに景気低迷による需要の減少により、また半導体が、シリコンファクトリーが増となったものの、コントローラやドライバの数量減により、減収。
- 精密機器は、高価格帯や国内向け腕時計が好調だったウォッチ事業を中心に堅調に推移し、増収。
- 社内計画との比較では、デバイス、精密機器ともに計画どおり。

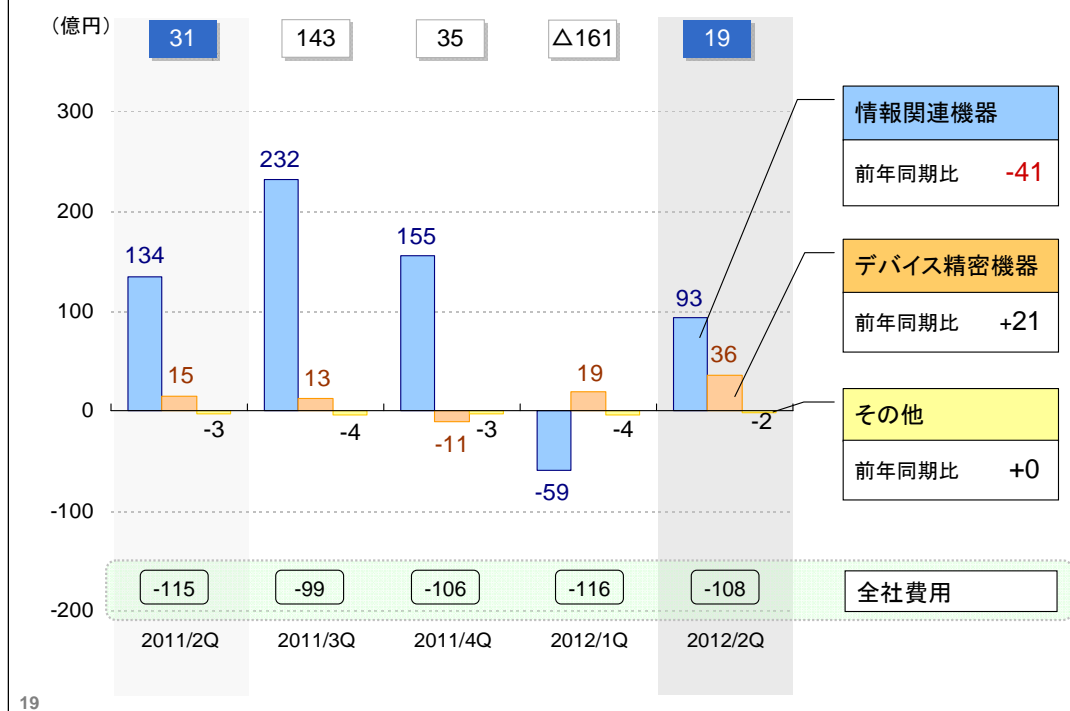
四半期販売費及び一般管理費推移



■ 販売費及び一般管理費の四半期推移

- 販売促進費を中心に各費用において、効率的な執行に努めたことにより、前年同期を下回る金額となった。

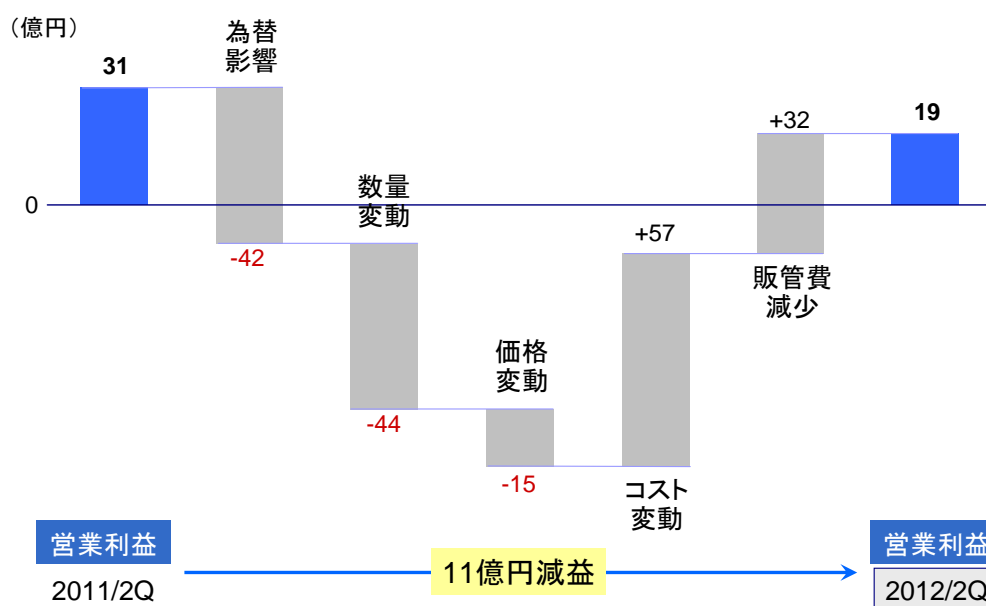
四半期営業利益推移 ▶ 事業セグメント別



■ 事業セグメント別の 四半期営業利益推移

- 当四半期の為替影響は、情報関連機器を中心に、約42億円のマイナス影響。
- 情報関連機器は、前年同期比 41億円減益の 93億円。
- インクジェットプリンターは、消耗品の減収に加え、震災の影響を受けた前年に比べ大幅に本体の生産数量が増加していることによる費用増により、減益。
- ビジネスシステムは、減収により減益。
- ビジュアルプロダクツは、増収により増益、ページプリンターは固定費削減により増益。
- 情報関連機器の社内計画との比較は、冒頭のとおり。
- デバイス精密機器は、デバイスが、水晶ならびに半導体は減収となったものの、コストダウンや要員転換の進捗にともなう固定費削減効果に加え、精密機器の増収などにより、21億円増益の 36億円。
- 社内計画との比較では、プロダクトミックス改善、ならびに固定費削減効果もあり、計画を上回った。

営業利益増減要因分析

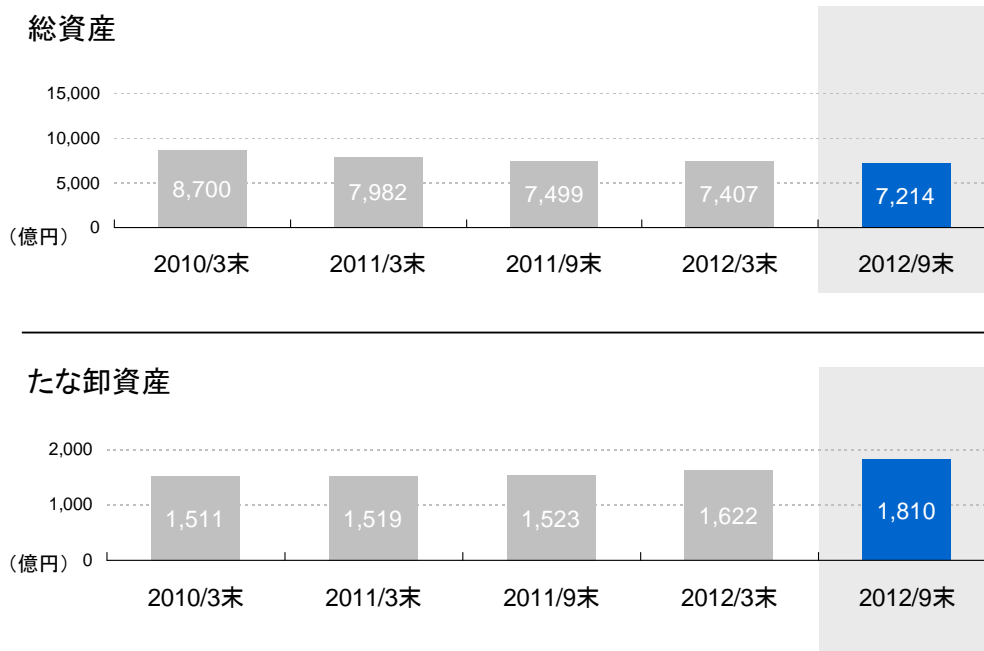


20

■ 営業利益の前年同期比の要因分解

- 2011年度 第2四半期の営業利益 31億円 に対し、コスト変動、販管費減少の増益要因があったものの数量変動、為替影響、価格変動の 減益要因により、四半期営業利益は 19億円。

貸借対照表主要項目推移



21

■ 貸借対照表の主要科目

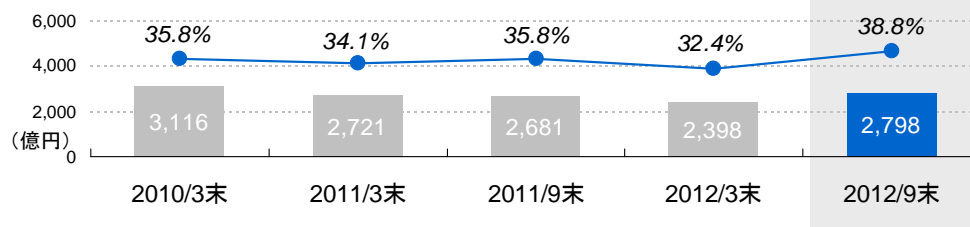
➤ 総資産は、

年末商戦に向けた増産や売上未達の影響などによるたな卸資産の増加があった一方、手元資金の減少や、受取手形及び売掛金の減少などにより、前期末に比べ 192億円減少。

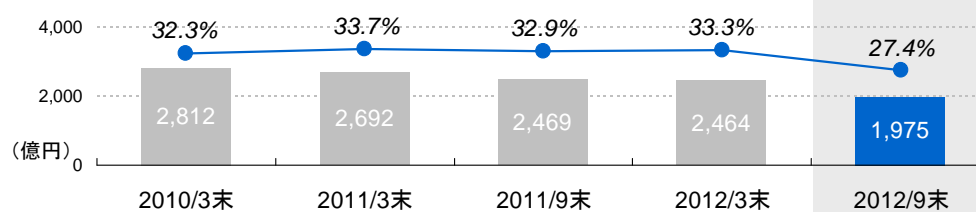
貸借対照表主要項目推移



有利子負債・有利子負債依存度



自己資本・自己資本比率



*有利子負債:リース負債を含む
*自己資本:純資産合計-少数株主持分

22

■ 貸借対照表の主要科目

- 有利子負債は、9月に実施した社債の発行などにより、前期末に比べて399億円増加し、総資産の有利子負債依存度は38.8%。ネット有利子負債は、1,561億円。
- 自己資本は、上期業績および為替換算の影響などにより、前期末に比べ488億円減少し、その結果、自己資本比率は27.4%。

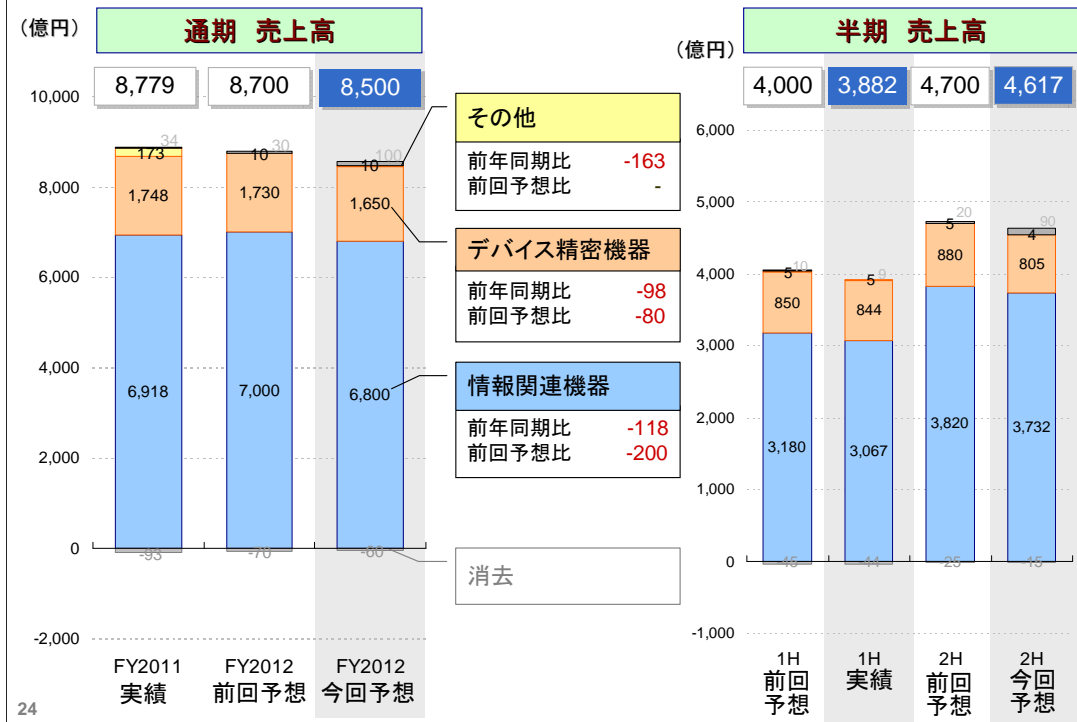
1) 2012年度 第2四半期決算

2) 2012年度 業績予想

23

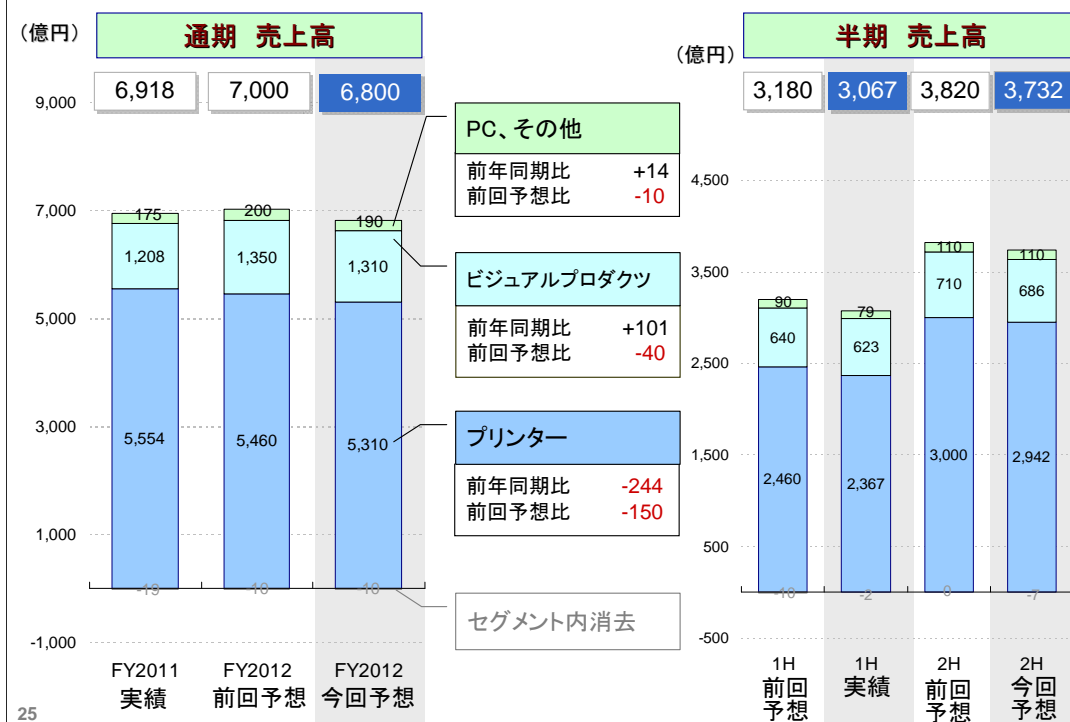
■ 2012年度の業績予想

2012年度業績予想(売上高)▶事業セグメント別



- 2012年度の事業セグメント別売上高の予想、上期 / 下期別の内訳
- 情報関連機器、デバイス精密機器ともに、下期の売上高予想を修正。

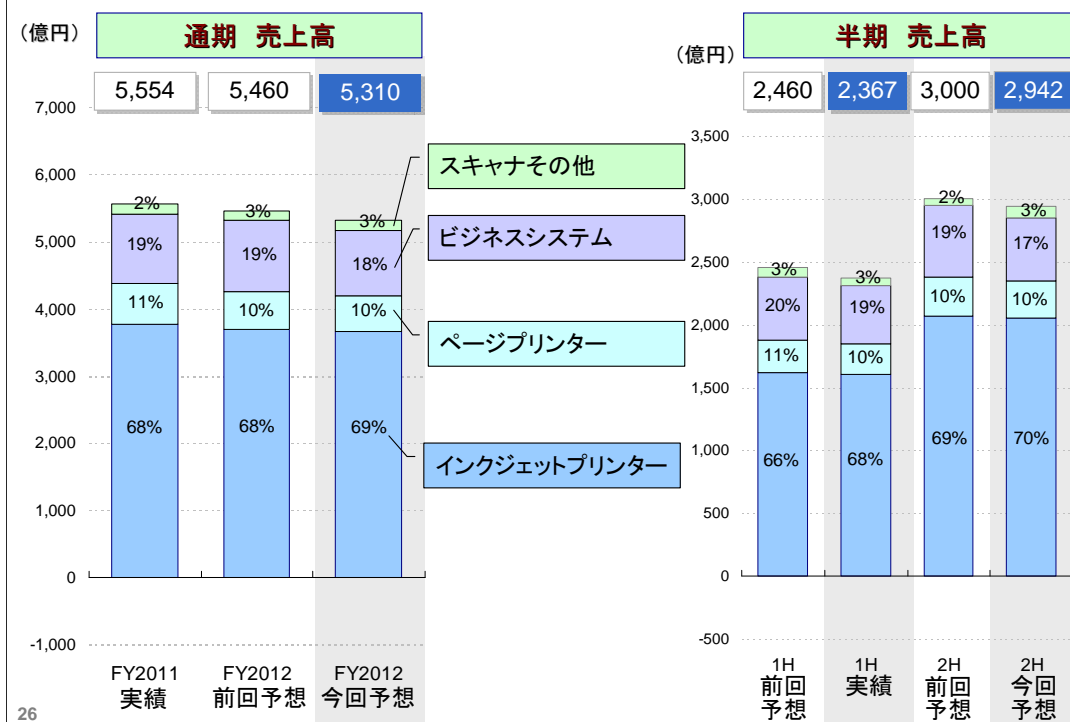
事業別売上高予想 ▶ 情報関連機器セグメント



■ 情報関連機器セグメントの事業部門別売上高の内訳

- ビジュアルプロダクツ事業は、成長を期待していた中国市場の成長率鈍化などにより数量の見直しを行うものの、今後も成長が見込める、高輝度や短焦点市場など当社が競争力を持つ戦略製品を中心に拡販することで、引き続き、市場成長を上まわる数量成長を目指す。

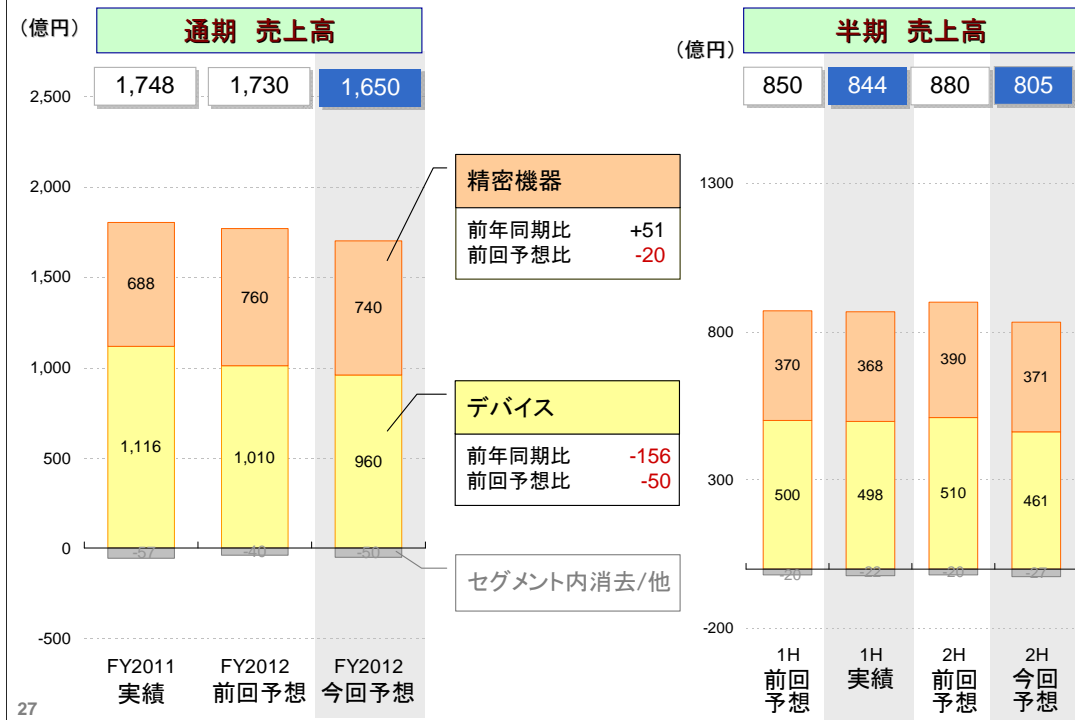
事業別売上高予想 ▶ プリンター事業



■ プリンター事業の製品別売上高予想

- プリンター事業は、前回予想を 150億円下回る 5,310億円を予想。
- インクジェットプリンターは、下期においては数量を追うことはせず、新製品の投入による価格維持、モデルミックスの改善、およびMIF 構成の改善に取り組む。これにともない、本体販売数量を2011年度なみの、1,460万台に見直し。
- あわせて、消耗品売上高についても修正。
- また、ラージフォーマットプリンターも、景気の回復遅れにともなう投資意欲減退の影響を踏まえ、数量は前回予想から見直し。
- ビジネスシステムは、欧米市場における景気回復遅れの影響や、徴税需要の来期へのずれ込みの影響を踏まえ、下方修正。

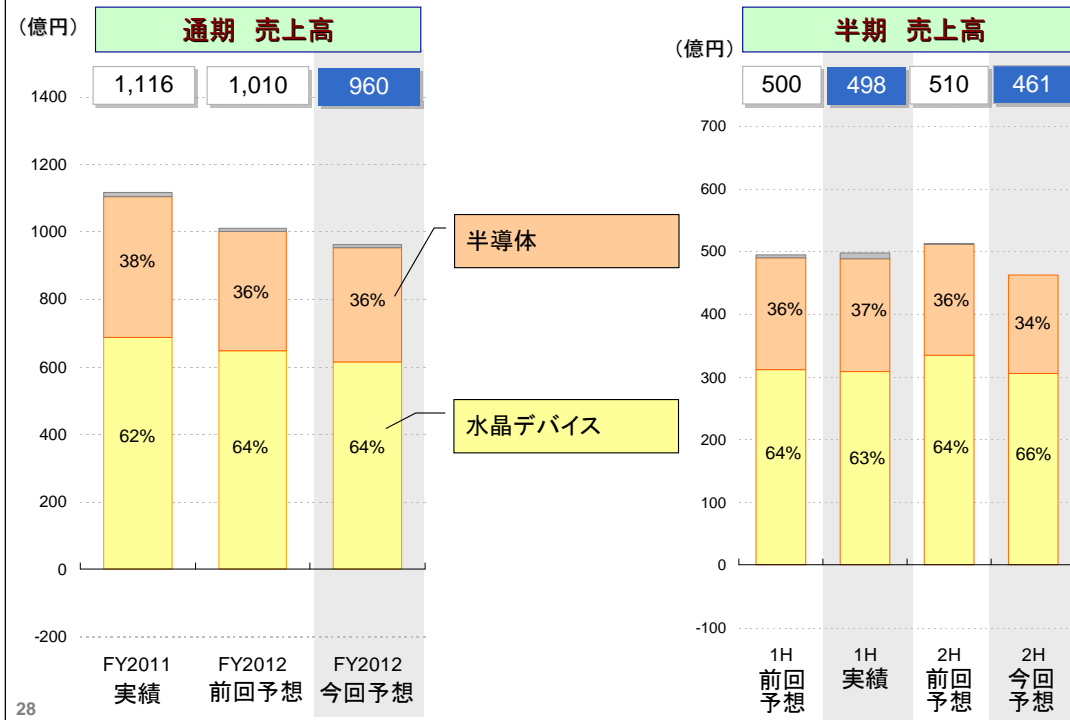
事業別売上高予想 ▶ デバイス精密機器セグメント



■ デバイス精密機器セグメントの事業部門別売上高の内訳

- デバイス事業、精密機器事業ともに、下方修正。
- 精密機器事業は、ウォッチにおいて、ソーラー電波時計などが堅調に推移するものの、ムーブメントに減速感があること、またFA機器において、中華圏や欧米の自動車関連での需要を見込むものの、ICハンドラにおける需要停滞の影響を織り込む。

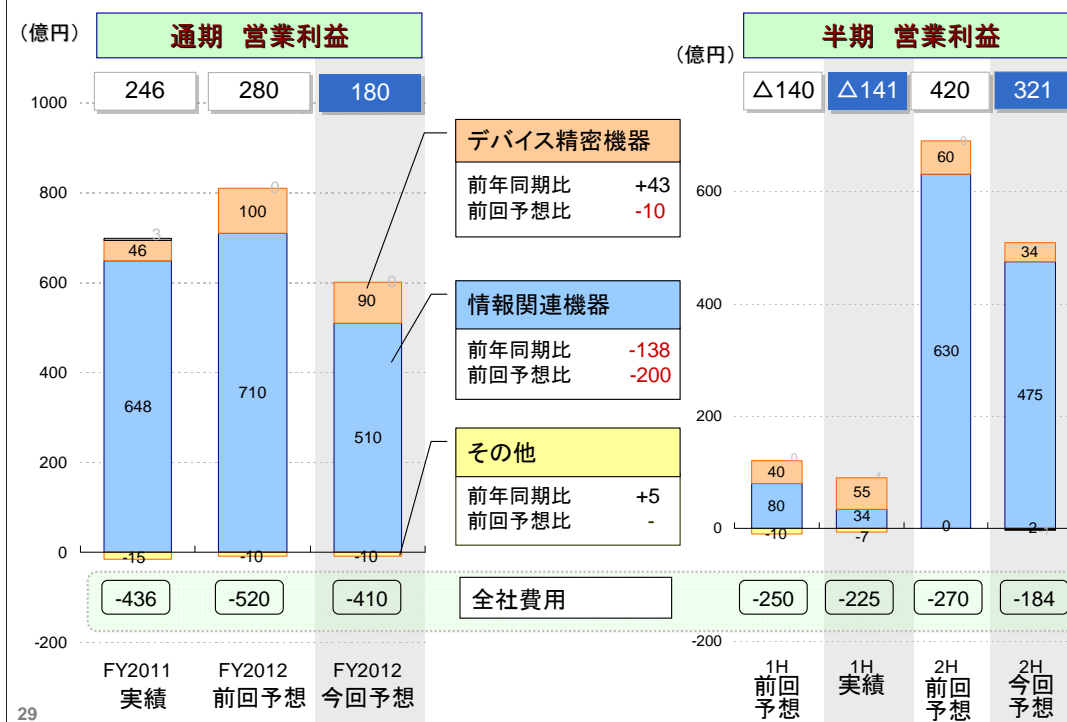
事業別売上高予想 ▶ デバイス事業



■ デバイス事業の製品別売上高予想

- 水晶デバイス、半導体ともに、デジタル家電や、携帯電話、スマートフォンなどの完成品の需要変動や、景気回復遅れによる低調な需要動向の影響を見込み、前回予想から下方修正。

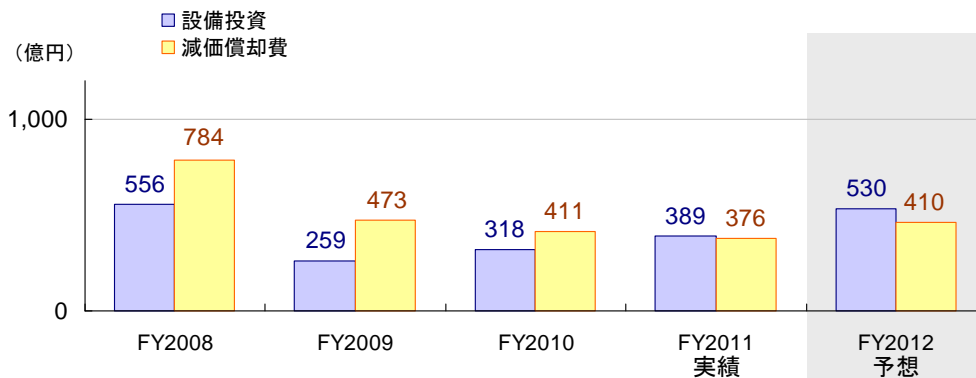
2012年度業績予想(営業利益)▶事業セグメント別



■ 営業利益の事業セグメント別予想と、上期 / 下期別の内訳

- 情報関連機器は、インクジェットプリンターにおいて、消耗品売上高の修正に加え、下期コストダウン計画の見直しにより下方修正となるが、小型化製品の生産比率が高まった第2四半期後半から、徐々にコストダウン効果が出始めてきており、2012年度下期は前年同期比で大幅な収益改善を見込む。
- ビジネスシステムおよびビジュアルプロダクツは、売上高の修正にともない下方修正。
- デバイス精密機器は、水晶、半導体のマイクロデバイス事業において、固定費削減や変動費改善などの諸施策が効果としてあらわれているが、売上高の下方修正影響を相殺するまでには至らず、前回予想から下方修正。
- なお、下期営業利益 321億円の内、8割以上を年間最大の商戦期である第3四半期での計上を見込む。

設備投資・減価償却費予想



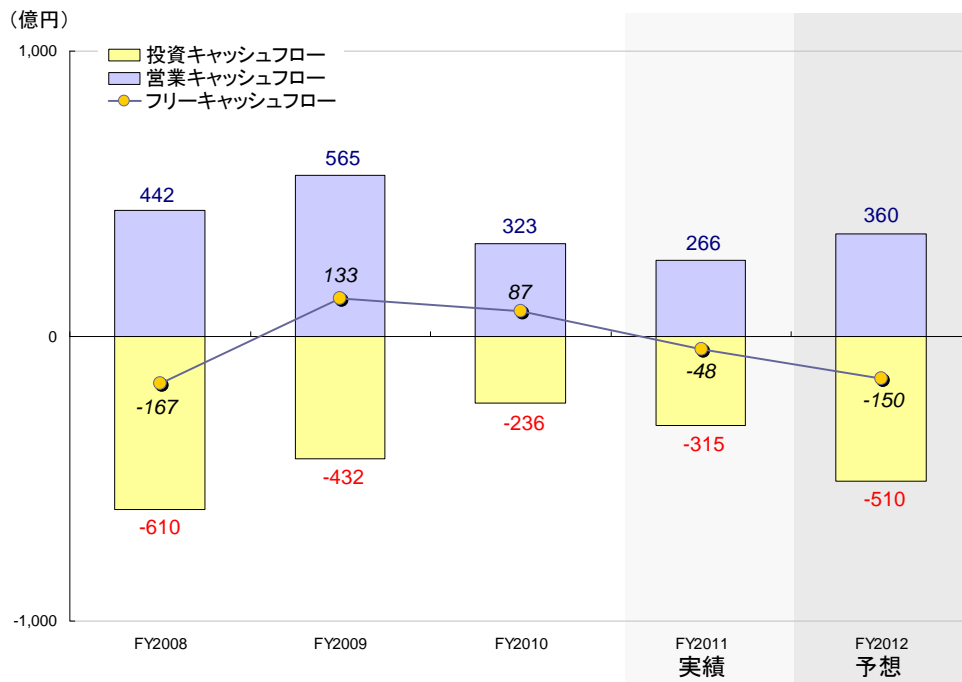
<セグメント別内訳>	FY2011実績		FY2012予想	
	設備投資	減価償却費	設備投資	減価償却費
情報関連機器	295	227	400	270
デバイス精密機器	68	101	100	90
その他・調整額	25	46	30	50

30

■ 設備投資と減価償却費

- 設備投資は、案件の厳選により530億円で、減価償却費は、執行時期のずれを反映し410億円で、それぞれ見直し。

フリーキャッシュフロー予想

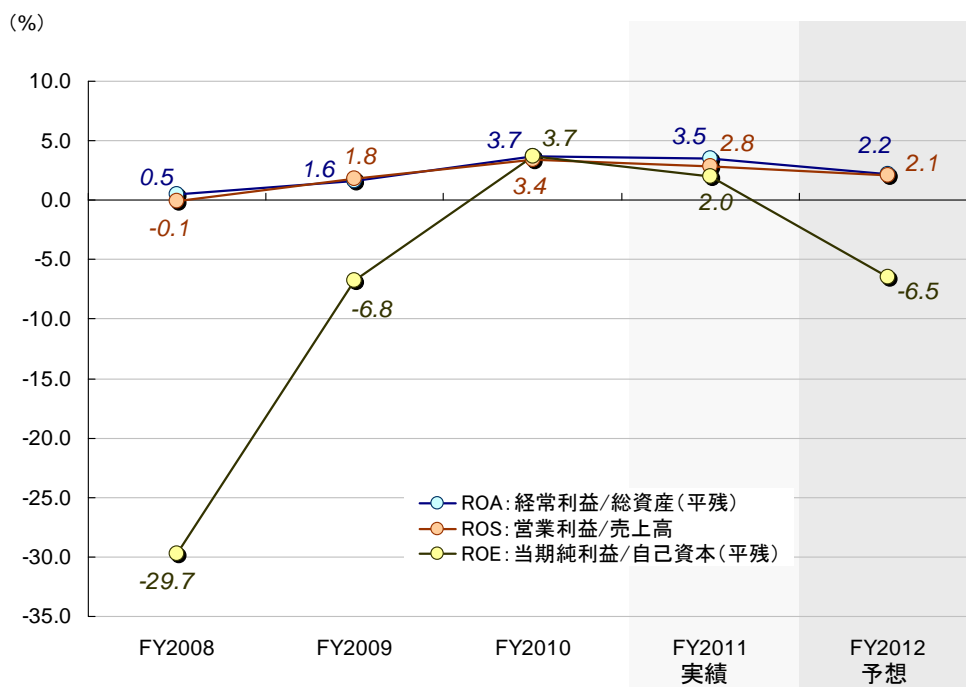


31

■ キャッシュフロー

- 業績予想の修正にともない、キャッシュフローを見直し。

主な経営指標の推移



32

■ 主な経営指標

ROSは 2.1 %、 (営業利益率)

ROAは 2.2 %

ROEは マイナス 6.5 %

EPSON
EXCEED YOUR VISION